

枚方市教職員組合と枚方市 PTA 協議会中学校部会

(会長会・母親情報交換委員会)との懇談会

日時:2003.11.9 14:00～

場所:枚方市教職員組合会館会議室

出席者: PTA 会長(7名), 副会長(10名), 小P(2名)

実行委員(5名) <PTA 24名>

市教組(22名) 合計46名

開会挨拶

富田部会長

- 本年度第2回目であるが、急遽問題として提起された「通学区域制度の弾力的運用」について話し合いたい。

枚方市教職員組合委員長 西山委員長

- 次週行われる秋祭りに向けて、今朝地域の掃除を行った。その時ある人が、「みんなで掃除をするのは気持ちいいなあ」とおっしゃった。こうした地域の感覚と、今回の問題である「通学区域制度の弾力的運用」についての教育委員会の感覚が違っていることを実感している。

基調講演「校区外通学の弾力的運用について」 西山委員長

- ・ 「学校選択の自由」に関する考え方
 - 内容・考え方の説明(配布資料による)。特に問題として訴えたいこと:2ページ目の第3段落目
 - 指定校区以外へ行く子どもの、上下級生との関わり、保護者の周辺地域との関わりが今よりもっと希薄になっていくのではないかと。
 - 減っていく学校では、3年後には生徒数が来年の3倍減る。例えば、30～50人が減ることも考えられる。このような学校は統廃合の対象とされるが、その理由として「保護者が選んだ」とすることになるのではないかと。行政の責任を放棄し、保護者に責任を押し付ける形になるように思う。
 - 中学校の弾力的運用はとっかかりではないか。ほんとうは小学校の弾力化とするのが目的ではないかと想像できる。地域と保護者と学校とで子ども達を育てる環境を保持すべきである。決まってしまったので撤回はできないが、できるだけ地域の学校へ通っていくように働きかけたい。

グループ討議報告

- ・ 第1ブロック
 - P
 - ◇ クラブ活動に興味を持っている子どもの動きが気になる。親の噂で動いているところがある。

- P
 - ◇ 私学といっしょの考え方が。親は学校の勉強で決めるかもしれない？
 - ◇ 生活指導などの役をどうするか。遠くから来る人が大変か？
 - ◇ 地域のおじさん、おばさんに怒られることがさらに希薄になる。
 - ◇ 中学校は地域で育てるようにすべき
 - ◇ 寝耳に水。市民の意見を事前に聞いてからにしてほしい。説明が不足している。
- P
 - ◇ 招中校区の保護者が三中はどうかと聞いてくる。ブラバンはどうか、水泳部を作ってほしい。ただ、クラブがずっと盛んかどうか分からない。なのに、クラブで選ぶということが分からない。
 - ◇ 地域にいても子供会に入らない人も多いように、すでに関係は希薄ではある。
 - ◇ アピールが重要になってきて、営業のようなことが強化されるのは？
- P
 - ◇ 野球部がないので下の子は、別に行きたいと言っている。そうすると、2つの別の学校に行くことになる。1年生についてはクラブが一番で、勉強ができるかどうかは親が思っているだけ。噂によって評価が決まるのではないか。年々減っていく方向になってしまうのではないか。正しい情報を認識してほしい。
- T
 - ◇ 問題がたくさんあると思う。いろんな声を聞いて考えていきたい。
- T
 - ◇ 小学校で勤務しているが、子どもが「来年はどこへ行ってもええねんな」と聞かれる。一部の子は「怖い」ので別に行くことを言う。
 - ◇ 他の子ともとの関係はどうするのか。
 - ◇ 小学校では子ども、保護者の意見に対して、指導をしてはいけないことにされている。教育委員会に言うことになっている。
- T
 - ◇ 現場としてもある日突然という印象。少なくなる学校の職員がづらい。
- T
 - ◇ 家庭訪問に遠くまで行かなければならないなあ、という話も出ている。
 - ◇ 本校は上(卒業生)とのつながりが多い学校。卒業生がよく訪れる。新しく入ってくる子どもの情報が少なくなってしまうのが気がかり。
 - ◇ 市からおろしてくることで、指示が多く、現場に、ひいては子どもに影響するのが気になる。
 - ◇ 塾が学校のランクを付けを出している。
 - ◇ 保護者の意見を聞きたい
- P
 - ◇ 校区の学校が荒れていたもので、自分は越境していた。
 - ◇ メリットとして、緊急避難的な活用ができる。不登校で他校区に行く場合に行きやすくなる。
 - ◇ デメリットばかりではないので、良い方向にしていってほしいと思う。
- T
 - ◇ 何を基準にされるのか。例えば点数で見ると、進学先などで比較するのがすべてではない。子どもに

は別の面があって、本来つけるべき力がある。アピールすることによっていっしょうけんめいになる教師にはなりたくない。

- ◇ 最初の差がどんどん大きくなる
- ◇ 全員が行きたいところに行けるわけではない。行きたくないのに行くというスタートを切る子が出てくる。
- ◇ 小規模校の運営が大変になる。

➤ P

- ◇ 急に降りてくる、現場の声が反映されないことが問題だと思う。
- ◇ 抽選でもれてしまった子のことを考えている
- ◇ バスケットを選んで来た子でも、教員の異動で廃部になる可能性がある。強いからといって選んでも、そうならない可能性があり、その子にはマイナスになる
- ◇ 塾によるランク付け資料を見た。そのような資料を子どもの目に触れるようにしている。クラブ見学会などで、その学校を見なければ分からない。

➤ T

- ◇ 基準はクラブ、生活指導面(風評)、学力になると思う。これらは選択性で解決する問題ではない。
- ◇ 選択の裏返しは「」である。特定の学校は選ばれない。選ばれなかった学校の。
- ◇ 選択の前提はみんなが平等であるべき。ホームページをすべての人が見られるわけではない。家庭の力の差が、不平等を生む。

グループ討議のまとめ： 組合および市Pからの以下の要望を出して欲しい。

- クラブの継続性の保証を。小学校6年生へのクラブ希望調査を実施する。
- 外部指導者数制限の撤廃(中体連の規約の変更を要請する)
- 中学校で説明会をやるべき。周知徹底する機会を設ける。11月中に学校での説明会を開いてもらうことを要望したい。各校で市教委が説明に来てほしい。学校は場所の提供で、情報の平等な提供を。今までの説明会では情報提供の平等性にかけている。

2グループ

「弾力的運用」について、どういう思いを持っているのか、PとT、それぞれの思いを話し合い、制度の運用について意見交換し考えの共有を図りたい。

- とにかく驚いた。公立の学校の前提が崩れる。
- 選択できるというのは語感が良いが、本人が責任を持つことになる。
- 情報が錯綜している。
- 教員は転勤するし、学校は流動的である。
- 地域が学校を作る、その大前提が崩れる。
- 人権侵害、差別が増えるのではないか。
- 学校間格差が広がるだろう(勝者対敗者)。
- 今の日本では時期尚早である。アメリカでは逆の流れが起きている。
- 学校側と教員、保護者の同意に基づく一定の規制が必要ではないか。
- 基本的には自分の住んでいる地域の学校を選ぶべきだ。

- 小学生とその保護者に説明不足ではないか。校区が広いので運用により子どもの交友関係が広まり、行動範囲がますます広くなり心配である。
 - 子どもの小学校の統廃合で苦労した。地域とのつながりがなくなる可能性があり心配だ。
 - 地域の学校に通うという、自然な流れをつぶしてしまう。子ども同士が小学校の頃からのお互いの成長を見つめ合いながら大きくなっていくという自然な流れをなくしてしまう。
 - 地域懇談や学年懇談なども大変になる。
 - 出て行った方の学校、取り残された子どもの方は元気が出ない。
 - 保護者のニーズと言われるが、誰の、どんなニーズなのか分からない。
 - ゆとりがなくなって、行事が大変である。
 - 以前から「荒れている」というウワサのある学校の場合、生徒数が減るのではないかと心配している。
 - 我々は保護者でもあり、地域の目でも子どもを見るが、学校がつぶれてしまうことになったらショックが大きい。親の責任で地元の学校を選ぶべきではないか。
 - 同様の制度が導入された他のほとんどの地域では検討委員会で事前に検討されている。
 - 枚方では突然決められたが、なぜなのか。
 - 保護者から質問があっても学校がきちんと答えられない。
 - 学校は地域との関わりが欠かせない。
 - 仲良しグループの一人だけが別の中学校に行くこともある。
 - 今までいじめをケアする方法がなかったので、それを解決するために導入されたと聞いている。
 - 学校と地域の関わり合いの重要性から、対象が少人数の制度だと思っていたが(受け入れ人員が)40人から80人という規模は多すぎて地域との関わり合いが心配である。
 - 学校間格差が広がると伸びていく学校は良いが、落ちていく学校は大変だろうし心配である。
 - 地域と学校との交流が希薄になるのではないか。
 - 今まで、クラブの問題、入りたいクラブの有無、熱心な先生の有無、学校までの距離のこと、いじめの問題などで校区外の中学校へ行けないのか、という議論はあった。
 - 学校活動や地域活動がますます大変になるのではないか。
- ・ この制度の運用について議論が十分にされていなかった。突然の発表でなぜ、今それが必要なのか、理由、方針、プロセスがよく分からなかった。
 - ・ いじめなどの救済という面では必要なこともあるが、学校は地域に根ざしたのもあるので、今回のように各校40人～80人のワクというような多数の異動が起こると生徒(友人関係)や学校と地域のつながりがどうなるのか。地域活動やPTA活動がどうなるのか不安である。
 - ・ 格差が出る。勝つ(生徒が増える)学校は良いが、負ける(減る)ところは学校がどうなるのか、学校や生徒、教師の元気が保たれるかどうか心配である。万一それが統廃合(廃校)につながるのであれば地域にも影響が出るし、何よりも生徒の気持ちがか心配である。

3グループ

- ・ P 賛成意見:小学校時代のいじめがあった場合に自由な移動が確保できる。
- ・ P 不安:統廃合につながる。クラブ活動の存続。生活指導が忙しくなる。

- P
 - いいのか悪いのかという前に、とまどいがある。今回の制度には賛成。子どもがいじめにあった場合は学校をかわることができる。統廃合も賛成である。
 - 先生の質も問われる。地域での対立があったという事も聞いた。
 - PTA が学校に協力し過ぎた。校長と教頭は門のところまで待っているが、先生は待っていない。子ども達は自分で守るために自主的だった。先生の姿勢をいいたい。
- T
 - 今でもソフトボールは他校と混合チームでやっている。新入生84人。サッカー、剣道部がなくなった。生徒の希望をなかなかかなえられない。
- T
 - 時間外で結構働いている。これ以上生徒が減るとクラブの維持がむずかしい。心配している。5クラスで今ちょうどいい。少人数授業は先生の空き時間がなくなっている。子ども達ならともかく、クラブだけでつながっている子ども達が来ると、生指面でどうしたらいいか。
 - 説明会に参加したのは13人だった。
 - 学校の設備が老朽化している、環境整備も大切だ。
 - 距離の問題(通いやすい所に行く)。
 - 友達関係(友達同士で同じ学校に行く)。
 - クラブが指定された学校になく、悩んでいる。
 - 1回しか決められないので、行ってみただけ・・・
 - どんなことがあるのか分からないけど、クラブだけで選ばれたら顧問が転勤するかもしれない。
- P
 - 入学希望者がちょっと減るかもしれない。現在でも地域との関係が希薄なのにもますますしらせてしまう。
 - 多くの子どもに来てもらえるような学校にするために、今から地域、学校と協議を進めたいし、同時に、今の中学生が満足して学校生活を送れるような中学校にしていきたい。
- T
 - 減ったら統廃合になるかも。
 - 減っても特色ある学校作りを進める。前に出た答申はどうなるのか。
- P
 - 増えれば、生活の基盤は地域にあるので、安全がくずれることを危惧する。交番は空き交番。
 - 何とか地域の疎外感を埋めていきたいのだが。

4グループ

- 地元自治会、コミュニティとの話し合いを持とう。
 - 600人くらいがさだ中に行くのでは？
 - 枚小 3年は5クラス
 - 伊賀 踏み切りを越えてくるだろうか。学年で言うと10人くらい。あるクラスに固めている。
 - 地域協 今年伊賀。これで我が地域協がどうなるか。
 - 白紙撤回できるならしたい。

.....'

<まとめ>

小西 PTA 協議会長

- ・ 11月中での説明会開催についての教育委員会への要望については、実行委員会に図って、決定する。

西山委員長

- ・ 11月中での説明会開催を組合の執行委員会で図って、教育委員会に要望する(火曜日)つもりである。情報の公平性という観点で申し入れをしたい。
- ・ 教育委員会はここ数年、トップダウンで決めてくる。校長先生も議論に加われない。半歩でも改善していくようにしたい。
- ・ 元気でなくても、明るくなくてもがんばっている子どもも育てている。そういう観点で、PTAといっしょに学校を作っていきたい。

富田会長

- ・ 今年は1学期と2学期の2回、二つの組合ごとに懇談会を行った。最初の会合では子どもたちの教育を取り巻くさまざまな問題について話しをし、2度目にはそれぞれの立場で問題解決に向けて取り組んだ成果を確かめ合おうと言うことでこの懇談会を進めてきたが、今回「弾力化」のことが出て、急きょこの問題について話し合ってもらった。ブロック別に分かれて具体的な話しができて、有意義な懇談会になったのではないかと思う。
- ・ 二つの組合に対して別々に話し合いを持つことはPTAにとってロスも多いし、もともと「教職員」との懇談会を標榜しているのに多くの未加入の先生方に話しを聞く機会がない。
- ・ 今後PTAと教職員が話しをする場はますます重要になってくるが、これからは、まず単位PTAで、組合にとらわれずに交流を進めて、その上で全教職員と全PTAが一堂に会し、膝つき合わせて話しをする場を設けたいと思っている。

小西会長

- ・ いろんな意見が出た。地域子ども達をどう育てていくかを考えていきたい。学校が地域にあることを考えて、危機感を持って考えていきたい。



